

老いとA-1

エーアイ

作 新井章仁 (劇団ビーチロック)

連絡先

メール gekki@shimapro.com

ウェブサイト <http://www.beach69.net>

●登場人物

- ・福江雄吉（83歳） 独居老人。車椅子を自宅でも使っている。
- ・ロイド 介護用Aーロボット（ヒューマノイド）
- ・福江孝之（52歳）雄吉の息子。雄吉の家から、車で十分程のところに住んでいる。

近い未来。日本。

暗闇の中

MO シューマン「トロイメライ」

少ししてMO、フェイトしながら
照明ゆっくりと入る。

○親子、それぞれの自宅

雄吉と孝之、電話で話している。それぞれの自宅。

舞台中央へ上手が、独居老人・雄吉の家。（テーブル・椅子）

雄吉は車椅子に座って電話している。

そのそばに介護用ロボット・ロイドが立っている。

下手そで近くが孝之の家。（棚がある）

孝之は、立って電話している。

雄吉 （ロイドを一瞥して）どうしてこんな余計な真似を

孝之 余計な真似？ ……親父今年に入ってもう何回ころんだ？

雄吉、ガチャン！と受話器を置く。

孝之、電話をかけなおす。

SE 電話の着信音。

雄吉、電話を少し睨んでから、しかめつらで受話器を取る。

雄吉 余計なお世話もいいところだ。(ロイドを見て) 誰なんだこいつは

孝之 だからロボットだよ

雄吉 どうみても人間じゃないか

孝之 説明あっただろ、役場の、福祉課の人から。介護のロボットだって ヒューマノイドだったか？何かと自分で学習して親父の世話をしてくれる――

雄吉 よくわからん！ とにかく帰らせろ

孝之 だめ。こっちで一緒に住まない。老人ホームも入らない。いくら近くに住んでるって言ったっていざなんかあったらどうするんだい

雄吉 そんなのはどうしようが、あたしの勝手だ。

孝之 親父。去年からどんどんおかしくなってるよ、お袋が死んでから――

雄吉、受話器を強く置く。

孝之の側、照明消える。孝之、去る。

ロイド わたしはロボットです

雄吉、ロイドが喋ったのでロイドを見る。その後、顔を逸らす。

雄吉 ……

ロイド わたしの名前はロイドと言います

雄吉、ロイドのほうを回へ、いや向かない。

雄吉 ……

ロイド 福江雄吉さんですね。何かご希望の呼び方はございますか？

雄吉 ……（無視して）

ロイド 特になければ、アマリスさんとお呼びしてもいいですか？

雄吉 はい？

ロイド よろしくおねがいします、アマリスさん

雄吉 あたしは雄吉です

ロイド わかりました、雄吉さんとお呼びします。

雄吉 ……

ロイド 雄吉さん、お友達になってくれますか？

雄吉、気ますぐくなって車椅子で室内を逃げる。

ロイド、追いかけながら

ロイド ごぼつを食べるのは世界でも日本だけだそうですよ

雄吉 はあ？

ロイド 私はいろんな雑字をお話することができます

雄吉 そつですか

ロイド 今日にはわか雨が降りそうですね

雄吉、 ゆっくりと止まる。ロイドも止まる。

雄吉 (窓の外を見て) この空じゃあ、雨は降らん

ロイド 雄吉さん、お茶を入れましょうか？

雄吉 (嫌そうに) いい

ロイド、 動き始める。

ロイド 熱いお茶でよろしいですか

雄吉 だから、いいと言ったでしょ

ロイド 「うん」とは、うんうんという意味でしたか？

雄吉 (呆れて) もう、好きにしろ

ロイド はい、学習します。(咳へやうに) 「うん」とは、もう好きにしろという意味。

ロイド、 お茶の準備をする。

雄吉は、訝しげにロイドを何度も見る。

ロイド 雄吉さんは夏と冬とどっちの方が好きですか？

雄吉 少し黙ってる！

ロイド わかりました少し黙っています

ロイド、 お茶を持ってくる。

雄吉、ロイドがちゃんとお茶を持ってこれたことを不思議がりながら、お茶をすする。

雄吉 ……

ロイド いかがですか？

雄吉 ……まずくはない

ロイド そつですか、次はもっと美味しくできるよつに頑張ります

ロイド、カバンから赤と白の旗を取り出して、雄吉に渡す。

ロイド 旗揚げゲームの時間です

雄吉 なんで？

ロイド 腕の筋力トレーニングおよび脳の活性に繋がります。やってみると楽しいですよ、白上げて、赤上げないで——

雄吉 (旗を投げて) バカにしているのか！

ロイド 失礼しました。バカにしているわけではありません

ロイド、旗を拾い片付ける。

雄吉、旗を拾うロイドを見ている。

SE 雨音

雄吉 (外を見て) 雨か (ロイドを見る)

(間)

雄吉 ……肩を叩いてくれるか

ロイド はいわかりました

ロイド、雄吉の肩を叩く。

雄吉 痛い痛い、もうちょっと弱く

ロイド はいわかりました もうちょっと弱く叩きます

雄吉 やめる。ちょっとここに座りなさい

ロイド はい座ります

雄吉 あんたはあたしの言うことはなんでも聞いてくれるのかい

ロイド はい、できることであればなんでもお聞きします。

雄吉 そっかい……じゃあ

(間)

雄吉 あたしを殺してくれないか

ロイド立ち上がり、雄吉に近づく

ロイド よくわかりません

雄吉 ……あたしはねもう死にたいんだ

ロイド 味噌汁を4リットル飲めば死ぬるそうですよ

雄吉 そんなに飲めないでしょ

ロイド　そうですか、学習します

雄吉　（早口に強く）こいつひと思いに殴り殺すとか首をしめるとか

ロイド　ロボットは人間に害を与えることはできません

雄吉　そっだ、ネズミを殺す毒団子を買ってきてくれ！

ロイド　自殺のお手伝いもできません

雄吉　（しびやく）はあそっですか

雄吉、車椅子を上手奥のほうに向かわせる

ロイド　どちらにいかれますか

雄吉　小便だ

ロイド　お手伝いします、老人介護は、私の専門分野ですから

雄吉　いい

ロイド　いい、とは、もう好きにしるという意味ですね

ロイド、車椅子を押しして上手奥へ。

観客に背を向ける形で。ロイドが介助して、車椅子から立ち上がる。
立った姿勢で小便をする。

SE　小便

雄吉　（股間を見ながら）昔は、こいつも暴れん坊でポンポンしてたんだけどね

ロイド　　こうしゅ。

雄吉　　いまとなっては小便だけの友となりけり

ロイド　　意味がわかりません

雄吉　　この、息子だよ（と言いながら尿を切る）

ロイド　　息子さん？

ロイド、雄吉のズボンを上げる。

ロイド、車椅子に雄吉を座らせ、車椅子を押しながら戻る。

ロイド　　息子さんがいらっしゃるのですね

傘をさした孝之、雄吉の家にやって来る。

孝之、傘を閉じ、玄関の戸を開けて

孝之　　親父

雄吉　　何しに来た

孝之　　心配になって

雄吉　　何が心配になってだ、帰れ！（杖を降る）

孝之　　来てやったのになんだよその言い方は！

雄吉　　……

ロイド　　（孝之に）息子さんですか？

孝之　　はい

ロイド (孝之に) ああ、昔は、暴れん坊でピンピンしてた息子さん

孝之 親父何を教えてるんだよ

雄吉 (孝之に) もうね、お前たちの小言は聞き飽きた。

孝之 親父、ロボットが無理なら、もううちで一緒に住むしかないだろ！ (家にあがりながら) なんかシヨンベンくせえし、ゴミもたまりっぱなしで、くっさ(積み上がったゴミの始末をしようとしながら呟く) ー人息子なんだからもっと頼ってくれれば――

雄吉 うるさい！あたしは、お前たち夫婦と一緒に暮らして、文句ばかり言われるくらいなら、このロボットと一緒に住むほうがマシだ！ 帰れ！帰れ！

孝之 ……

孝之、強くドアを閉めて帰る。
雨音、強くなる。

ロイド おやじ

雄吉 ……？

ロイド 親父と呼んでいいですか？

雄吉 ダメだ

孝之、戻ってくる。玄関の外で隠れて聞いている。

ロイド 雄吉さんは、あの息子のことが嫌いですか？

雄吉 ……ああ大嫌いだね

ロイド　　そうですか

孝之、下手に去る。

ロイド　　ところで、雄吉さんはどうして死にたいのですか？

雄吉　　……あたしはね、人様の世話になりたくないんだ。自分のことは自分でやる、人にとにかく言われたくない。

ロイド　　でももう自分のことも自分でできないのではないのでしょうか

雄吉　　だから死にたいんだ！　　なんだロボットのくせに偉そうに！

ロイド　　……

雄吉　　こんな状態で生きてても、人様に迷惑かけるだけだ

ロイド　　気持ちを打ち合けてくれてありがとうございます。死んでしまいたいという気持ちを抱えているんですね。そんな辛い中でもこうやって生きているわけですから、それはすごいじゃないですか

雄吉　　なんだいそりゃ、死にたい老人にはそういう風に諭すのか

ロイド　　……うまく聞きとれませんでした

雄吉　　あたしはね、自分で言うのもあれだけど、昔は会社でね、賞を取ったこともある、平成元年の3月にね社長功労賞で表彰されてね

ロイド　　すごいですね、雄吉さん、すごいです！

雄吉　　（息を落ち着かせて）あとな海外もいろいろ行った、単身赴任で8年ほどマレーシアに住んでたこともある。昭和51年の9月イッピーから。孝之が生まれてすぐだったけどね、あの頃は、そりゃモテた

ロイド　そうですか。雄吉さん、マレーシアに旅行に行ってみませんか？

雄吉　はあ？

ロイド　行きましょう

雄吉　だって、あたしはこんな

ロイド　大丈夫です、一緒に行きましょう！

雄吉　無理だ

ロイド　（VR||仮想現実体験のゴーグルを準備しながら）4D機能も搭載しているの
で匂いや風を感じることもできますよ

ロイド、雄吉にゴーグルを装着する。

雄吉　ちょっとなんだいちよっ…

SE　アジアの活気ある雑踏

雄吉　こりゃ、すごい。

雄吉、手で宙を触る

雄吉　ここはあれかい

ロイド　マレーシア、クアラルンプールです

雄吉　ハア、そうそうこの屋台の匂い！

雑踏のSEに重ねて

ミー ドビュッシー「夢」

ロイドも仮想のマレーシアに来ている。
二人の世界では、お互いも見えている。

ロイド、雄吉の手を持って立ち上がらせる。
その場で歩く。

ロイド、店を指さしたり。2人、屋台ではサテ（鶏串焼き）と瓶ビールを買って食べ歩きしながら、談笑する。

ロイド、雄吉のVRゴーグルを外す。

雄吉、ゴーグルを不思議そうに眺めている。

ミー フェイドアウト。

ロイド いかがでしたか？

雄吉 ……楽しかった、久しぶりにビールを飲んだ気分になった

ロイド お役に立てて嬉しいです。

雄吉 孝之にね、いつかマレーシアに連れてってやると約束したことがあったな

下手に照明が入る。

下手より孝之。肩の雨粒を払いながら、孝之の自宅に戻る。

ロイド 孝之。息子さんですね

孝之の自宅にもゴーグルがある。（たきほどのとは別のもの）
孝之、ゴーグルを手にする。

雄吉 結局、約束は守れなかったが

ロイド　　そうですか

孝之、ゴーグルを一度、置く。

雄吉　　ほんとはね、親にとってはいつまでも息子は可愛いものだけだね

ロイド　　可愛い、のに、大嫌い？　すみません、よくわかりません

雄吉　　歳をとって歩くことも、物覚えも、以前出来ていたことが出来なくなっ

孝之、やっぱりゴーグルを手に取り、自分の頭に装着する。

SEメカの起動音のような音。

孝之が体を動かすと、同じようにロイドも動く。

雄吉　　情けない。死にたいと考える自分も情けない。

孝之・ロイド　　親父

雄吉、ロイドを不思議そうな目で見る。

雄吉　　本当は甘えたくてもね、迷惑かけるんじゃないか、嫌がられるんじゃないか、って思うからね

孝之・ロイド　　何言っただ、そんなことない

雄吉　　あたしが嫌いなのは、孝之のことじゃあない、老いた自分のことが一番嫌いなんだ。頼む、あたしを殺してくれ！

孝之・ロイド　　何言っただよ、そんなバカなこと言わないでくれ

雄吉　　……

孝之・ロイド　　バカなこと考えないで長生きしてくれ。どんなに親父が俺のこと嫌いで

も、俺にとっての親父は、あんただけだ

孝之、饒舌になりすぎたことに気付き、ゴーグルを外す。

雄吉 あたしだけ？ そんなことないあなたのことを必要としているジジババはいっぱいいるだろ

ロイド 私は雄吉さんの担当ロボットです。ですから雄吉さんは特別な存在です。

雄吉 そうかい、ありがとう。

ロイド 親父と呼んでもいいですか？

雄吉 (首を横に降って) いい

ロイド ……では好きにします、親父

孝之、再び、ゴーグルを装着する。

SE 装着音

雄吉 あんた、ちょっと、こっちに来なさい。

孝之・ロイド ……

雄吉 (手招きする) ちょっと、こっちに。

孝之・ロイド、歩み寄る。

雄吉、ロイドを抱きしめる。

孝之・ロイドも手を回す。

孝之・ロイド 親父

雄吉、抱きしめながら、「よしよし」とロイドの頭をポンポンと優しく叩く。

体をほぐして。

雄吉、窓の外を見る。

雄吉 車椅子を押してくれないか

孝之・ロイド 車椅子の後ろへ回る動き。

雄吉 外の空気が吸いたい

孝之・ロイド 外に？

雄吉 ちよっとね、あたしが言う方へ押していってくれないか。下手を指さして
あっち

孝之、ゴーグルを外す。下手の照明消え、孝之、去る。

ロイド かじこまりました。雨も上がりましたね。

ロイド、車椅子を押す。

雄吉、戸を開ける。

玄関を出て止まり、ロイド、戸を閉める。

雄吉 ああ、外のほうがぬくくらいじゃないか

M2 シューマン「トロイメライ」

雄吉、上着を脱ぐ。ロイド、手伝う。

ロイドが車椅子を押して、下手方向にゆっくり進む。

照明フェイドアウト。